

もし南海トラフ巨大地震が発生したら？

● 江南市の地震被害想定

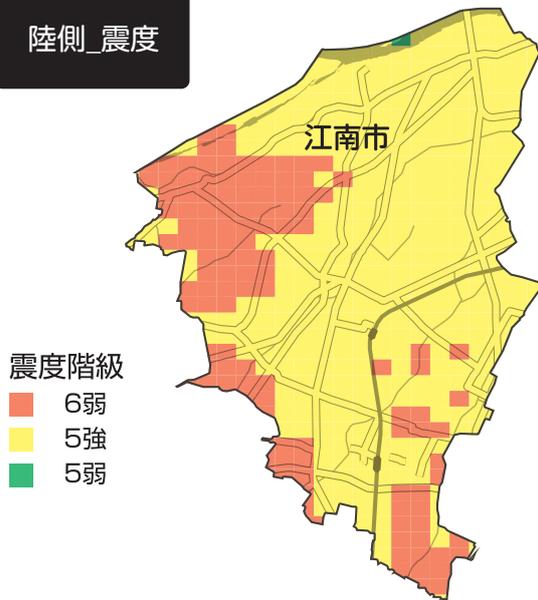
過去地震 最大モデル

南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模の大きいもの（宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震）を重ね合わせたモデル。

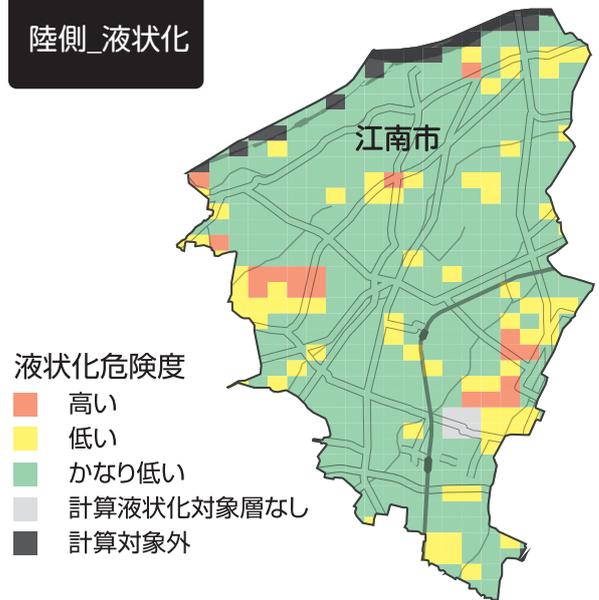
理論上最大 想定モデル

南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震を想定。（千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いもの）

陸側_震度



陸側_液状化



避難所・避難場所は、P.13~16 を参照してください。

		過去地震 最大モデル	理論上 最大想定モデル
		震度5強	震度6弱
建物全壊・焼失	揺れ	わずか	約20棟
	液状化	約10棟	約10棟
	浸水・津波	わずか	わずか
	急傾斜地崩壊等	わずか	わずか
	地震火災	わずか	約10棟

※想定時間帯（冬夕方18時）

愛知県防災会議地震部会が発表した『平成23年度~25年度愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果』（平成26年5月）より

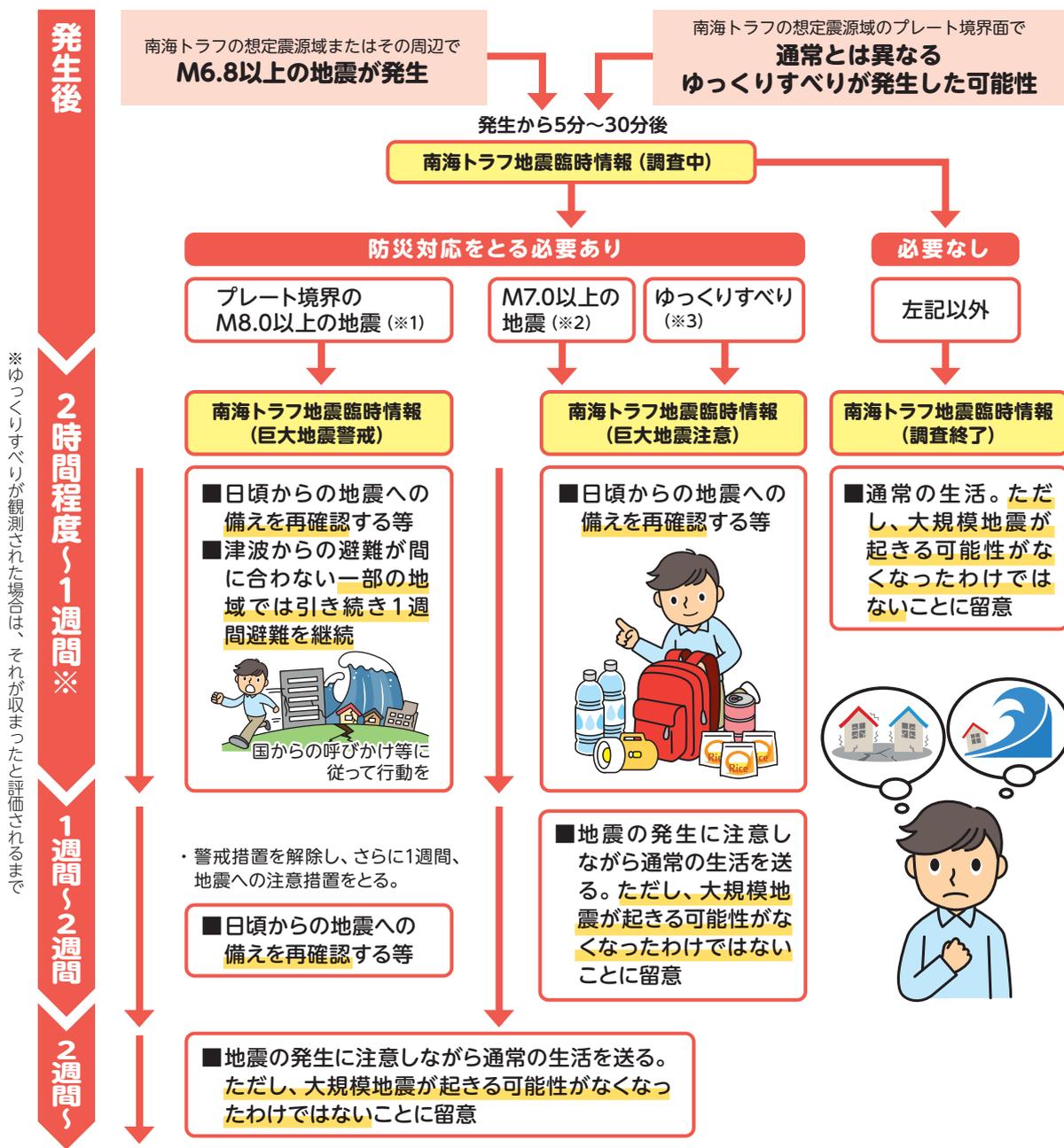
南海トラフ地震臨時情報とは？



時間差で発生する巨大地震に備えましょう ～南海トラフ地震臨時情報～

- ・南海トラフ地震発生の可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合に気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。
- ・政府や地方公共団体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。

地震発生後の防災対応の流れ



家で備えること(揺れに備える)

●家の中の安全対策

日ごろから家具の固定をしたり、配置を工夫して地震に備えましょう。

タンス・棚
L字金具などで固定します。支え棒を使用する場合は壁側の位置に設置し、免震ゴムを家具の手前側に入れるとよいでしょう。上段と下段に分かれたキャビネットなどは、つなぎ目を金具で連結します。

照明器具
つり下げ式の照明器具については、チェーンと金具で数箇所を固定します。また蛍光灯は、蛍光灯の両端を耐熱性のテープで止めておきます。

玄関・ブロック塀
玄関や縁側など、外への避難路となる場所は、家具の転倒などでふさがれないよう、配置を工夫します。ブロック塀のあるご家庭は、傾きやひび割れ、破損がないか点検しましょう。

窓
ガラス面に飛散防止フィルムを貼ります。

感震ブレーカーの設置
感震ブレーカーとは、地震発生時に一定以上の揺れを感知した場合、自動的に電気の供給を遮断します。分電盤タイプ、コンセントタイプ、簡易タイプなどがあります。

テレビ
できるだけ低い位置に置いて固定します。

額縁
チェーンや金具でしっかり固定します。ガラス面には飛散防止フィルムを貼ると安全です。

暖房器具
耐震自動消火装置付きのストーブを使用し、周囲に燃えやすいものを置かないようにしましょう。

ピアノ
本体にナイロンテープなどを巻き付け、太めの柱に取り付けた金具に連結し、しっかりと固定します。脚には専用のすべり止め器具を付けましょう。和室用と洋室用の両方が市販されています。

冷蔵庫
粘着テープを使用した、転倒防止用の専用ベルトが市販されています。また、チェーン等で固定できるよう、上側にフックがついている場合もあります。

食器棚
両開き扉タイプの食器棚などは、扉が開かないように止め金具を付けます。ガラス面には飛散防止フィルムを貼ると安全です。

●こんな安全対策も大切

家具を固定するなどして転倒や落下を防ぐことと同じように、家具の置き場所などにも工夫が必要です。次のようなポイントを参考に実行しましょう。

- 家具の少ないスペースをつくる**
いざというときに、家族が家具の転倒や落下を避けて集まることができる、安全なスペースを確保する。
- 寝室には大きな家具を置かない**
とくに子どもや高齢者などが就寝中に倒れた家具の下敷きにならないよう、寝室に大きな家具を置かない。
- 出入り口や通路に物を置かない**
出入り口や通路をふさぐような場所に物を置かない。家具が倒れたときに備えて向きも考える。
- 重い物は下に収納する** 家具の重心を安定させるため、重い物は下に、軽い物は上に収納する。

家で備えること(持ち出し品と備蓄品)

●「非常持ち出し品」と「備蓄品」を 区別して用意しましょう

- ▼避難するときに持ち出す必要最小限の「非常持ち出し品」
- ▼自宅で生活するための「備蓄品」

分けて揃えることで、
それぞれの中身を
整理しやすくなります。



チェックリスト

※何を必要とするかは、家族状況やお住まいの地域によっても異なります。
日ごろから家族で話し合しましょう。

非常持ち出し品リスト

- ティッシュペーパー
- タオル
- ポンチョ
- 除菌シート
- マスク
- 携帯電話の充電器
- 印かん
- 止血するもの
- 懐中電灯
- ライター
- ナイフ
- 下着
- 手袋
- 充電式ラジオ
- 食料
- 飲料水
- ヘルメット
- 乾電池
- 健康保険証コピー
- メガネ、コンタクト用品
- 生理用品
- 現金など
(停電時に公衆電話で使用する
10円、100円硬貨含む)
- 体温計
- 歯磨きセット
- 消毒液



乳幼児

- 離乳食
粉ミルク・液体ミルク
- 加熱調理器具
- 消毒用品
- 紙おむつ
- おしりふきなど

高齢者

- 入れ歯
- 介護食
- 大人用紙おむつなど

疾患のある方

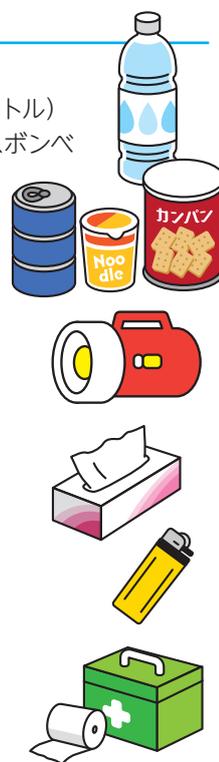
- 主治医の連絡先
- 持病薬メモ(処方箋等)
- 持病の薬など

ペット

- 動物病院連絡先
- リード
- ケージ
- ペット用食品
- 排泄用品など

備蓄品リスト

- 食料
- 飲料水(1人1日3リットル)
- カセットコンロ、ガスボンベ
- 常備薬
- 携帯・簡易トイレ
- 懐中電灯
- 乾電池
- 充電式ラジオ
- ビニール袋
- ラップ
- ティッシュペーパー
- トイレットペーパー
- ウェットティッシュ
- ろうそく
- ライター
- 毛布
- 歯磨きシート
- 抗菌・消臭剤
- 救急セット
- 生理用品
- 使い捨てカイロなど



地震などの広域災害の場合、救援物資がすぐ被災地に届くわけではありません。非常持ち出し品、3日分以上(可能な限り1週間分程度)の飲料水と食料、医薬品等を日ごろから準備しておきましょう。

家族のためには



※予備メガネ、補聴器、持病の薬、お薬手帳など、家族に応じた非常持ち出し品を考えましょう。

枕元には



※夜、地震が起きた場合に備えて用意しておきます。飛び散らないように袋に入れておきましょう。

車の中や 倉庫等には



※バール・ジャッキ・テント・毛布・寝袋・ビニールシートなども車の中や取り出しやすい場所に用意。

地震にあったら

自宅

丈夫な机やテーブルなどの下にもぐり、机などの脚をしっかりと握りましょう。また、頭を座布団などで保護して、揺れがおさまるのを待ちましょう。

- 突然大きな揺れに襲われたときは、姿勢を低く、頭を守り、じっとする「シェイクアウト」を行い、まずは自分の身を安全に守れるように心がけましょう。
- 棚や棚に乗せてあるもの、テレビなどが落ちてきたりするので、離れて揺れがおさまるのを待ちましょう。



寝ているとき

揺れで目覚めたら寝具にもぐりこむかベッドの下に入れる場合はベッドの下に入り、身の安全を確保しましょう。

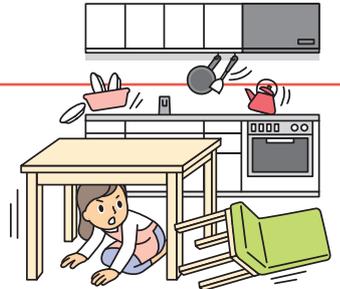
- 暗闇では、割れた窓ガラスや照明器具の破片でけがをしやすいので注意しましょう。
- 枕元には、厚手の靴下やスリッパ、懐中電灯、携帯ラジオなどを置いておき、避難が出来る準備をしておきましょう。



台所

まずは、テーブルなどの下に身を伏せ、揺れが収まるのを待ちましょう。

- 食器棚や冷蔵庫が倒れてくるだけでなく、中身が飛び出してくることもあるので注意しましょう。
- コンロの近くの場合、調理器具が滑り落ちてくる場合があるので、コンロの近くから離れ、揺れが収まったら落ち着いて火を消しましょう。
- 揺れを感じて自動的にガスの供給を停止するガス漏れ遮断器（ガスマイコンメーター）がほとんどのご家庭に設置されています。特性や使い方を十分に理解しておきましょう。



外出時

強い揺れに襲われると、住宅地の路上には落下物や倒壊物があふれます。

- 住宅地の路地にあるブロック塀や石塀は、強い揺れで倒れる危険があります。また、電柱や自動販売機も倒れてくる場合がありますので、そばから離れましょう。
- 屋根瓦や二階建て以上の住宅のベランダに置かれているエアコンの室外機、ガーデニング用のプランターなどが落下してくる場合があります。頭の上も注意しましょう。
- 強い揺れが起きると、耐震性能の低い住宅が倒壊する場合があります。これにより瓦礫や窓ガラスが道路内に散乱する可能性もありますので、揺れを感じたら周辺の状況に注意しましょう。



運転中の場合

急ブレーキを踏めば予想外の事故を引き起こすことにつながります。

- 揺れを感じたら
 - 1: 急ブレーキは禁物です。ハンドルをしっかりと握り、前後の車に注意しながら徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車します。
 - 2: エンジンを切り、揺れがおさまるまでは車外に出ず、カーラジオから情報を入手します。
 - 3: 避難の必要がある場合は、車のキーはつけたままにし、ドアをロックしないで、窓を開めます。
 - 4: 連絡先を見えるところに書き、車検証などの貴重品を持ち、徒歩で避難します。
- 車での避難は、緊急自動車などの妨げになりますのでやめましょう。
- 高速道路では、以下の点にも留意しましょう。
 - 高速走行しているのでハザードランプを点灯させ、前後の車に注意を喚起します。
 - 高速道路ではトンネルや高架部分に非常口が設けられており、ここから徒歩で地上に脱出することができます。

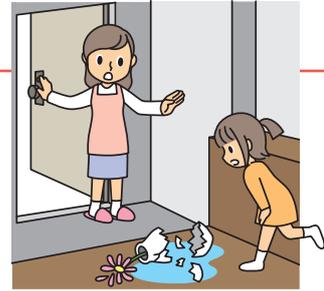


揺れがおさまったら

身の安全の確保

まずは周囲を確認。身の安全を確保しましょう。

- あわてて行動すると、転倒した家具類、飛び散ったガラスの破片等でケガをする恐れがあります。
- 小さな揺れの時、又は揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口を確保しましょう。



避難の判断

正しい情報に基づいた判断を！
それがあなたの運命を左右します。

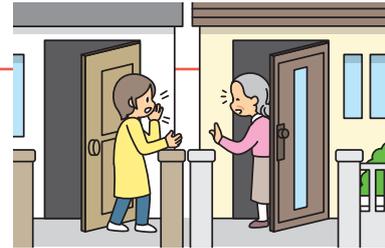
- 災害が発生したときにはデマが飛び交いがち。噂に惑わされず、テレビ、ラジオ、市からの情報に注意し、正しい状況の把握に努めましょう。
- 市からの避難指示等が出たら、それに従いましょう。
- 市からの避難指示等がなくても、身の周辺に危険が迫っていると判断した場合は、ためらうことなく避難しましょう！
- 消防署、警察等は救急・救助活動等に追われていることが予想されます。災害状況の問い合わせ等はこれらの活動に支障をきたすのでやめましょう。
- 地震時に多くの人が電話をかけると、電話がつながりにくい状況になりますので、電話や携帯電話の使用は控えましょう。



避難の行動・家を出るとき

避難するときも周囲を確認。
思わぬ事故に遭う恐れがあります。

- 外に出るときも周囲の確認を。ガラスや看板等が落ちてくる可能性があります。
- 避難する時には、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めましょう。
- 我が家の安全を確認後、近所にも声をかけて安否を確認しましょう。



避難の行動・火災に遭遇した場合

火災では煙が死亡要因の多くを占めています。
冷静な避難行動をとりましょう。

- 日頃から火災が発生した場合に備えて避難ルートを確認しておきましょう。
- 火災報知設備の警報を聞いたときは、状況を確認するとともに、速やかな行動を心がけましょう。
- 煙が部屋や廊下に充満してきた場合は、ハンカチやタオルなどで口・鼻をしっかり覆い、煙を吸わないよう姿勢を低くして避難しましょう。



帰宅の判断

遠距離を無理に帰宅しようとすると、却って二次災害を引き起こす恐れもあります。
むやみに移動しないようにしましょう。

- 無理に帰宅しようとすると、通行できる道路が限られ、また駅などには人が押し寄せてパニックが発生する恐れがあり、消防活動などに支障を生じる恐れもあります。
- 家族の安否が心配な場合は、公衆電話、NTTの災害用伝言ダイヤル171、携帯電話・スマートフォンの災害用伝言板(裏表紙参照)で家族と連絡をとり、安全が確認できたら、無理に避難する必要はありません。
- 帰宅することだけを考えるのではなく、状況に応じて、自分がいる地域の救援活動に参加することも考えましょう。

